



# 羅針盤



江藤 隆史  
Takafumi Etoh

東京通信病院皮膚科 部長, Visual Dermatology 編集委員

## 祝 200 号！ 17 年間編集委員をつとめて

Visual Dermatology も 2002 年 4 月の創刊号 (大原國章先生の悪性黒色腫特集号) 以来 17 年が経過しました。この号で記念すべき 200 号目になることを、羅針盤を書くにあたり指を追って数えて、今気がつきました！！200 冊の ViD (私はビッドと密かに呼んでいます) は、編集長の大原先生を中心にビジュアルな皮膚科の臨床写真をふんだんに誌上に掲載し、色々な企画を組んできました。これまでの症例や大原先生がまだまだお持ちになっている臨床写真をベースに部位別の特集を組み始めることにいたしました。今回第 1 弾として手のアトラスを企画しました。ボリュームがあまりに多いので、炎症編①と、非炎症編②の 2 回に分割し、後半 (12 月号) のまとめ役は新しく編集委員に加入された門野岳史先生にお願いしています。また、本特集号の膠原病の手の診方は聖路加国際病院 皮膚科部長 新井 達先生にお願いしています。2 つに分けてもまだ分量が多く、すべての手に現れる皮膚疾患を網羅できなかったことをお詫びさせていただきます。

今回が 200 号ということで、それでは 100 号目は何の特集かと勘定してみたら、2010 年 7 月号で青山裕美先生 (来年の増刊号を準備中) と塩原先生が企画された「女性医師がひらく皮膚科の未来」でした。塩原哲夫先生の序論「女性たちの『坂の上の雲』」を読み直し、塩原先生の熱い語りによって改めて感動しました。

大原先生、塩原先生、松永先生、大槻先生に囲まれながら 200 カ月のあいだ生まれ、編集委員の末席を務めさせていただいてきた私もそろそろ企画力も無くなり、

新たなメンバー 梶島健治先生、門野岳史先生そして安部正敏先生、多田弥生先生にバトンタッチしてゆくことになりました。大原先生を中心としたビジュアルダーマトロジーは永遠に不滅です。長い間お世話になりました。



江藤が初めて責任編集を務めた Visual Dermatology 2002 年 8 月号 (Vol.1, No.5)「乾癬—その多様な臨床」(第 5 号) の羅針盤。あれから 16 年がたちました。300 号は 2027 年 3 月号になる予定です。その時は古いメンバーで何か企画したいものです。さて、私は生存しているでしょうか？